



2024年1月12日
第89号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実
編集 情宣担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



JR東労組横浜地本 2024年「新春旗開き」開催 梶田書記長 基調報告

◆安全問題について

JAL機の衝突事故を受けて、航空安全の専門家、黒田勲さんの「安全というものはこの世に存在しない。常に存在するのは危険である」「鉄道の安全など航空機の安全に比べれば簡単なこと。鉄道は何かあれば止めてしまえば事故は起きない。航空機は止めたら墜落する。」という言葉が思い出されました。昨年、横浜地本管内で重大事故が相次ぎました。横浜地本は政策フォーラムで、「危険を感じたり、違和感を感じたら列車を止めよう、また、隣接線で何かあった場合でも一旦立ち止まって確認しよう」と提言をしました。昨年8月5日に発生した東海道線大船駅構内電化柱倒壊・衝突事故では、当初私たちが「なぜ指令は隣接線を動かしたのか？」と会社だけに矢印を向けていました。本当に会社だけの責任なのか議論すると、自分でも同じように動かし始めたという意見がほぼ全員の意見でした。私たちも運行優先になっていたということです。「列車を止めて確認する」という地本提言を職場の隅々まで議論していただきたいと思っています。横浜地本は集まることはできるようになりましたが、宇都宮運輸区分会のたたかいから、会議では必ず結論を出すということを学びました。原因究明委員会を開催したら具体的行動を決める。決めたことは皆で守ることを実践して、安全文化・安全哲学の再確立を職場から実現していきましょう！

◆2024JR総連春闘について

1月5日、経済三団体の新年会が開かれ、大手企業は10%を超える賃上げを行うと回答しました。これは、政府が給与総額の7%以上の賃上げをした企業には、法人税から給与増額の最大で35%を控除できるとした税制優遇を行うことも影響していると思われます。しかし、私たちが目を向けなければならないのは、政府主導、大企業主導で賃上げを行うことの危険性です。目の前の利益に騙されれば、労働組合は弱体化し、労働者は政府や企業の言いなりになります。それが、政府・企業の狙いです。本来、春闘とは、労働者が団結し、各労働組合が横並び一線で企業に対し賃上げを求めるものです。ですから、私たちはJR総連春闘として加盟各単組が統一要求・統一闘争でたたかい抜き、春闘の灯を守らなければなりません。今年は4年ぶりに結集軸として3月7日、春闘集会を開催します。騙されず、諦めず最後までJR総連春闘をたたかい抜きましょう。

◆組織拡大について

昨年末、横浜駅において組織拡大を実現しました。「事務手続きに不備があっても会社はそのことを認めず、『お前が間違っている』と社員のせいにしたこと、一方でJR東労組の仲間は家庭のことも含めて親身に聞いてくれた」と本人が語ってくれました。横浜駅分会のたたかいは最大の教訓は、執行部間でも相互討論、相互に指摘をしながら執行部自らを強化し、個人ではなく組織として組織拡大に向かったことです。昨年は、横浜地本として、組織拡大が実現できませんでした。それは、実践議論や学習はするけれども、その先の「じゃあどうするのか」という具体的な行動を決め切れておらず、対象者の意見を聞くだけに留まっていたことです。今年1年は、次なる行動を確定して、言葉だけでなく具体的に組織拡大を実現していく年にしましょう。